“原子力緊急時支援・研修センター　紹介”

原子力機構は、災害対策基本法及び防災基本計画に基づき、指定公共機関として、茨城県ひたちなか市と福井県敦賀市に「原子力緊急時支援・研修センター」（支援・研修センター）を設置しています。

支援・研修センターは、原子力災害時には、国からの支援要請を受け専門家の派遣、資機材の提供、防護対策のための技術的助言、技術情報の提供などの実効ある支援活動を行います。また、平常時には、国、自治体、関係防災機関等の方々に原子力緊急時における危機管理対応のあり方、広報活動の基本・要点について、講義や演習等を通して学んでいただくことを目的とした活動を行っています。東京電力福島第一原子力発電所事故に対しても、専門家の派遣、特殊車両や放射線測定器類の提供（現在は提供終了）、電話相談窓口の対応を行っています。

以下に、福井県敦賀市にある支援・研修センターを紹介します。

●所在地：福井県敦賀市縄間54号大西平6番2　●各種資機材：現地での防災活動を支援する資機材を提供します。

特殊車両

【資機材運搬車】

（現地での事故対応を支援するための資機材を搭載した車両）

【移動式体表面測定車】

（原子力施設周辺住民に対する放射能汚染の評価を行うための測定設備を搭載した車両）

【移動式全身カウンタ車】

（原子力施設周辺住民に対する内部被ばく線量の評価を行うための測定設備を搭載した車両）

【移動式現場指揮車】

（現地での、情報収集、各関係機関との連絡に必要な設備を搭載した車両）

【高機能モニタリングカー】

（空気や水、穀物等に含まれる放射性物質を現地において測定・分析するための設備を搭載した車両）

支援・研修センター福井支所に配備している移動式体表面測定車、移動式全身カウンタ車は、東京電力（株）福島第一原子力発電所の事故に際して、平成23年5月9日から平成24年5月21日まで、東京電力㈱の各支店等に出動し、作業員を対象に測定を実施してきました。その後は、平成25年1月25日まで、福島県内の学校等に出動し、福島県住民等の内部被ばく測定を行い、現在は、福井支所において、点検・整備を終え、待機しています。

放射線測定機器類

【中性子線用サーベイメータ】

（中性子線量の測定器）

【電離箱式サーベイメータ】

（放射線量の測定器）

【GM計数管式サーベイメータ】【アルファ線用遠隔式サーベイメータ】

（表面汚染（放射性物質の付着）の有無を確認する測定器）

（アルファ線量の測定器）

【遠隔式サーベイメータ】

（先端の検出器を約4m引き延ばすことができる放射線測定器）

●実践的研修・訓練～平成24年度実績（一部紹介）～

①福島現地災害対策本部支援
　・・・4～9月
②島根県原子力防災総合訓練
　・・・1回（平成25年1月26日実施）
③原子力防災研修　・・・12回・参加者約300名
　（福井県警通信機動部：7月26日実施他）
④原子力防災啓蒙活動・・・3回・参加者約130名
　（敦賀市内原子力施設見学会支援：8月30日実施他）

【福島現地災害対策支援】

（電話相談窓口対応）

【島根県原子力防災総合訓練】

（移動式体表面測定車体験）

【原子力防災研修】

（サーベイメータ実習体験）

【原子力防災啓蒙活動】

（防護服装着体験）

防災には日頃からの備えが必要です。原子力緊急時支援・研修センターでは、緊急時に技術支援活動に従事する要員の研修・訓練を行う一方、国、地方公共団体、その他防災関係機関で原子力災害対応に携わる方々を対象とした実践的な研修・訓練を、今後も積極的に行なってまいります。

さいくるミーティング（地域訪問活動）実績（平成13年10月～）件数：1，556件　人数：36，590人　（平成25年9月2日現在）

高速増殖炉研究開発センター

○「もんじゅ」プラント作業状況

平成25年7月17日18日の両日、原子力規制委員会の調査団によるもんじゅ敷地内破砕帯の現地調査が実施されました。

調査団は、原子力機構が報告した敷地内の剥ぎ取り地点やもんじゅ周辺の破砕帯露頭等を調査しました。今後は、調査結果をもとに、同委員会が開催する有識者会合の場で破砕帯の審議が行われる予定です。

原子力機構は、有識者会合の場で更なるデータの提供を求められれば、迅速に対応してまいります。

【敷地内剥ぎ取り地点調査】
（撮影日：平成25年7月17日）

【もんじゅ周辺の破砕帯露頭調査】
（撮影日：平成25年7月18日）

原子炉廃止措置研究開発センター

○「ふげん」プラント状況

原子力機構は、国の補助金事業として実施されている原子力平和利用を確保するための核不拡散・核セキュリティの強化に関する核物質測定・核鑑識技術の開発に必要な業務として、米国エネルギー省と共同で実証試験を進めています。

この事業は、米国のロスアラモス国立研究所が開発中の、原子力発電所等のプールに保管されている使用済燃料中のプルトニウムを非破壊で分析する測定装置を用いて、実際に「ふげん」で保管中の使用済燃料を対象に測定・分析するものです。この装置による測定が平成25年6月20日から28日にかけて行われました。

今後、測定したデータの解析を進め、ふげん使用済燃料中のプルトニウム量の解析値との比較分析を行う予定です。

【実証試験での測定】
（撮影日：平成25年6月27日）

国際原子力情報・研修センター

○エネルギー研究開発拠点化計画の一環として、
エネルギーや環境に関する学校教育への支援を行っています

【敦賀市立粟野小学校4年生　出前授業
「電気のはたらき」
光電池を使って自動車を走らせる演示実験】
（撮影日：平成25年6月26日）

編集後記

羽のない扇風機、人を感知して風量や風向きを調整するエアコン、音声で電源の入切を知らせてくれる調理器等、多種多様な家電が色々と発売されています。
より快適、便利、節電を追及し日本の家電は日進月歩の進化を続けています。
10年前の機能でも不自由と感じることはありませんが、新機能がついた製品はひと味違います。便利さが格段に向上し、より一層安心して使用できるだけでなく、使うことの楽しさまでも考慮されています。
家電業界の開発者達は、現状の最新技術に満足することなく、消費者の声に耳を傾け、いくつもの視点から見直し、常に試行錯誤が繰り返され新しい技術が生み出され、常に発展していきます。そのようにして世に送り出された次世代の新商品にはどんな機能がついていくのか消費者の一人としてとても楽しみなところです。
私も、家電開発者を見習い、現状に満足することなく今までの常識や既成概念にとらわれないように向上心をもって業務に臨みたいと思います。そして、「安全」の向上、改善、常に自らが安全文化の醸成につなげていけるよう努力していきます(K)。

● 本資料に関するお問合せ先 ●
日本原子力研究開発機構　敦賀本部　業務統括部広報課
Tel ： 0770-21-5023　Fax ： 0770-25-5782　ホームページアドレス　http://www.jaea.go.jp
発行：平成25年9月2日

原子力機構 敦賀本部からのお知らせ

文部科学省の原子力機構改革本部による「機構改革の基本的方向」について

平成25年8月8日、文部科学省に設置された日本原子力研究開発機構改革本部の第4回会合において、「日本原子力研究開発機構の改革の基本的方向（案）－安全を最優先とした組織への変革を目指して－」が示されました。

原子力機構は、当機構に向けられた厳しいご指摘を真摯に受け止め、今般の「改革の基本的方向」を踏まえ、今秋を目途に、具体的な改革計画を策定致します。

役職員全員が、自分達が自分達を新しく造り直すのだという覚悟を持ち、実効性のある改革に取り組み、地元をはじめ国民の皆様から信頼が得られる安全を最優先とする組織として認められるよう、総力を挙げて取り組んで参ります。

理事長 松浦祥次郎

【基本的方向（案）】8月8日付け　文部科学省ホームページから抜粋

●原子力機構の業務の基本的考え方

日本における唯一の原子力に関する総合的研究機関として、その社会的使命、果たすべき役割を念頭に、機構の業務の重点化を図る。

●業務の重点化の具体的方向

・東電福島第一原子力発電所事故への対応及びそのための研究開発
・原子力の安全性向上に向けた研究
・原子力の基礎基盤研究の推進とそれを支える人材の育成
・核燃料サイクルの研究開発（「もんじゅ」を中心とした研究開発）

ご挨拶

日頃より、私どもの業務に対し、厚い御理解を賜り、深く感謝申し上げます。

皆さまにおかれては、この半年「もんじゅ」に関して報道されました点検の未実施（保守管理の不備）については、「何をしているのだ、原子力機構！もんじゅ！」「一体、どういう集団なのか、機構は？」という印象を持たれたのではないでしょうか。多くの心配を皆さまにおかけし、大変申し訳なく思っております。

本件に関しましては、原子力規制委員会より厳しい措置命令が出されました。「もんじゅ」の施設の安全性の確保は規制庁によって確認されていますが、現場では、未点検機器の点検を実施するとともに、再発防止に向けた改善活動を行っているところであります。

また、この問題に関しては、現場での改善に加え、文部科学省が設置した機構改革推進本部の下で、機構全体の組織体制・業務の抜本的な見直しのための改革案がまとめられ、今秋を目途に、原子力機構が具体的な改革計画を策定致します。

策定します改革計画に基づき、私ども「もんじゅ」に対してはこれから厳しい大きな改革を行っていくこととなりますが、現場においては「もんじゅ」に与えられた使命を一人ひとりが十分に認識し、「もんじゅ」の一員であることに誇りを持ち、皆さまに安心していただける「もんじゅ」の再生に全精力を注いで参ります。

また、今後、「もんじゅ」の改善の姿を皆さまにお知らせして行くとともに、皆さまの忌憚のないご意見を糧として、更なる改善を図っていくこととします。

最後に、先日行われた現場での決起集会で唱和されたスローガンをご紹介します。「忘れまい、この反省と再起の決意。安全優先を徹底し、自ら考え取り組もう。「もんじゅ」の改善、我らの誓い。」 今後とも皆さまの一層の御支援、御理解の程、よろしくお願い申し上げます。

敦賀本部
副本部長
瀬戸口　啓一